

### Ⅲ がん死亡数及び死亡率

#### 1. 岡山県と全国の死亡率の比較

年齢調整死亡率を全国値と対比した（表 4）。岡山県の全国に対する比をみると全部位で男では 0.93、女で 0.84 と全国を下回った。

部位別にみると、男では膵臓が 1.14、肝臓が 1.03 と全国を上回り、次いで悪性リンパ腫が 0.98、肺が 0.97 と全国とほぼ同等であった。女では肝臓が 1.17、膀胱が 1.01 で全国を上回った。

岡山県では男女ともに年齢調整罹患率（2010 年）の全部位は全国値を上回っているものの、死亡率は全国値を下回っている。

表4 岡山県と全国との比較（年齢調整死亡率と年齢調整罹患率(参考)-: 主要部位別、性別 2011年

	年齢調整死亡率 <sup>(*)</sup>						年齢調整罹患率 <sup>(*)</sup> 2010年	
	男		女		岡山/全国		岡山/全国	
	岡山	全国	岡山	全国	男	女	男	女
全部位	166.3	179.4	77.5	91.8	0.93	0.84	1.04	1.11
食道	7.7	9.0	0.8	1.2	0.85	0.68	1.03	0.97
胃	23.5	27.4	9.0	9.9	0.86	0.91	0.96	1.02
大腸	17.5	21.4	8.9	12.1	0.82	0.73	1.09	1.14
┌ 結腸	10.7	13.0	6.9	8.7	0.82	0.79	1.07	1.03
└ 直腸	6.8	8.5	2.0	3.4	0.80	0.58	1.12	1.39
肝臓	18.6	18.0	7.0	6.0	1.03	1.17	1.06	0.99
胆嚢・胆管	6.7	7.0	3.8	4.5	0.96	0.85	0.83	0.83
膵臓	14.8	13.0	7.8	8.4	1.14	0.93	1.04	0.91
肺	40.5	41.7	8.2	11.4	0.97	0.72	0.94	0.85
乳房	-	-	10.9	12.1	-	0.90	-	1.02
子宮	-	-	4.1	5.4	-	0.77	-	1.61
卵巣	-	-	2.7	4.3	-	0.62	-	0.85
前立腺	6.0	7.8	-	-	0.8	-	0.99	-
膀胱	3.1	3.6	1.0	1.0	0.86	1.01	1.68	1.35
悪性リンパ腫	4.8	4.9	2.1	2.6	0.98	0.82	0.96	1.25
白血病	3.1	4.5	2.2	2.5	0.70	0.87	0.69	0.97

年齢調整死亡率<sup>(\*)</sup>: 岡山の値については、表5から転記した。全国値については人口動態統計による。

年齢調整罹患率<sup>(\*)</sup>: 表2から転記した2010年の年齢調整罹患率。

## 2. 主要部位別死亡数、粗死亡率及び年齢調整死亡率

岡山県の2011年のがん死亡数、粗死亡率及び年齢調整死亡率、死亡割合を男女別、主要部位別に示した(表5)。

がん死亡数については人口動態統計の数値(外国人を含まない)を使用した。

県内のがん死亡者数は男が3,241人、女2,159人。合計5,400人に上り、全死亡者20,407人の約26.5%を占めている。

部位別死亡数では肺が最も多く、男810人、女254人となっており、次いで胃の男462人、女273人となっている。

年齢調整死亡率(人口10万対)をみると、男では肺(40.5)、胃(23.5)が高く、女では乳房(10.9)、胃(9.0)の順になっている。

死亡割合についてみると、男では肺(25.0%)、胃(14.3%)、肝臓(11.0%)が、女では胃(12.6%)、大腸(12.6%)、肺(11.8%)が上位3位を占めた。

表5 死亡数、粗死亡率、年齢調整死亡率および死亡割合:主要部位別、性別 2011年

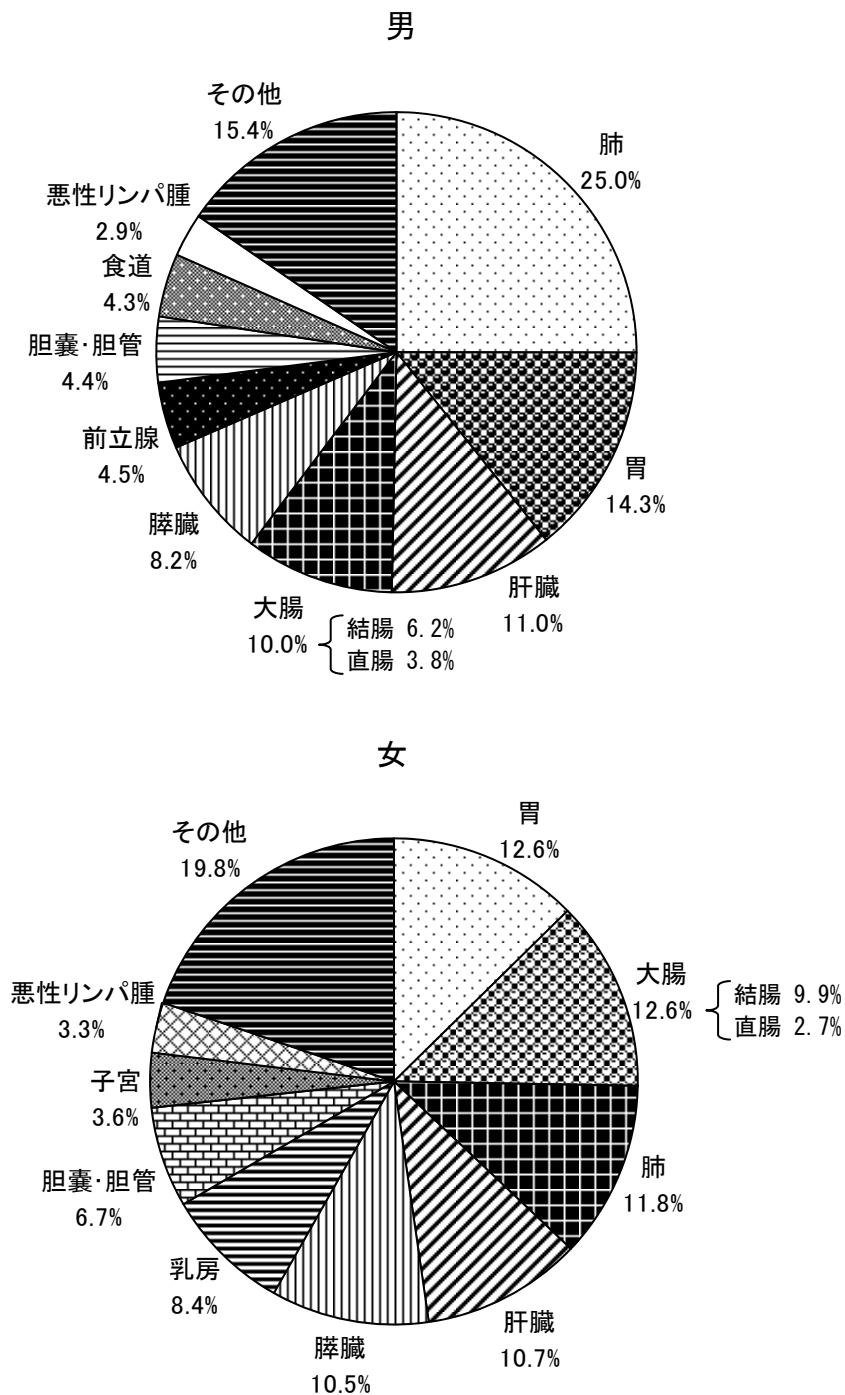
部位	死亡数			粗死亡率		年齢調整死亡率				死亡割合	
	男	女	計	男	女	日本人人口 <sup>(※1)</sup>		世界人口 <sup>(※2)</sup>		男	女
						男	女	男	女		
全部位	3,241	2,159	5,400	348.1	213.8	166.3	77.5	113.2	54.3	100.0%	100.0%
口腔・咽頭	64	31	95	6.9	3.1	3.8	1.0	2.7	0.7	2.0%	1.4%
食道	138	22	160	14.8	2.2	7.7	0.8	5.4	0.6	4.3%	1.0%
胃	462	273	735	49.6	27.0	23.5	9.0	16.1	6.4	14.3%	12.6%
大腸	324	273	597	34.8	27.0	17.5	8.9	12.2	6.3	10.0%	12.6%
<div style="display: inline-block; vertical-align: middle; font-size: 2em;">{</div> 結腸	200	214	414	21.5	21.2	10.7	6.9	7.4	4.8	6.2%	9.9%
	直腸	124	59	183	13.3	5.8	6.8	2.0	4.8	1.5	3.8%
肝臓	357	230	587	38.3	22.8	18.6	7.0	12.7	4.5	11.0%	10.7%
胆嚢・胆管	143	144	287	15.4	14.3	6.7	3.8	4.5	2.5	4.4%	6.7%
膵臓	265	227	492	28.5	22.5	14.8	7.8	10.2	5.3	8.2%	10.5%
喉頭	13	1	14	1.4	0.1	0.6	0.0	0.4	0.0	0.4%	0.0%
肺	810	254	1,064	87.0	25.2	40.5	8.2	27.0	5.7	25.0%	11.8%
皮膚 <sup>(※3)</sup>	7	11	18	0.8	1.1	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2%	0.5%
乳房	0	181	181	0.0	17.9	0.0	10.9	0.0	8.3	0.0%	8.4%
子宮	-	78	78	-	7.7	-	4.1	-	3.0	-	3.6%
卵巣	-	66	66	-	6.5	-	2.7	-	1.8	-	3.1%
前立腺	145	-	145	15.6	-	6.0	-	3.9	-	4.5%	-
膀胱	73	39	112	7.8	3.9	3.1	1.0	2.0	0.7	2.3%	1.8%
脳・神経系	24	13	37	2.6	1.3	1.7	0.7	1.4	0.6	0.7%	0.6%
悪性リンパ腫	95	72	167	10.2	7.1	4.8	2.1	3.3	1.3	2.9%	3.3%
白血病	59	46	105	6.3	4.6	3.1	2.2	2.1	1.6	1.8%	2.1%

日本人人口<sup>(※1)</sup>:1985年日本人モデル人口 世界人口<sup>(※2)</sup>:Dollの世界人口

皮膚<sup>(※3)</sup>:皮膚の黒色腫を含む

上位9位の部位別死亡割合を男女別にグラフで示した（図12）。

図12 部位別死亡割合（%）2011年：主要部位別



### 3. 主要部位別罹患と死亡の比較

罹患と死亡（人口動態統計による）各々について数、粗率、年齢調整率を男女計について対比するとともに、罹患数の死亡数に対する比（I/M）及び死亡数の罹患数に対する比（M/I）を示した（表6）。なお、外国人については罹患数集計では除外していないが、死亡数は外国人を除外した数値である。

届出の精度を示す第二の指標である全部位のIM比は2.55であった。

部位別のIM比は生存率の相対的な高低を示唆するものであるが、皮膚(18.56)、前立腺(7.41)、子宮(6.90)、乳房(5.88)、喉頭(5.50)が高かった。

表6 罹患数及び死亡数、粗率、年齢調整率(人口10万対)及び罹患数と死亡数の比:主要部位別、男女計 2011年

	数		粗率		年齢調整率 <sup>(*)</sup>		罹患数 ／死亡数 (IM比)	死亡数 ／罹患数 (MI比)
	罹患(I)	死亡(M)	罹患(I)	死亡(M)	罹患(I)	死亡(M)		
全部位	13,758	5,400	708.9	278.2	380.3	115.9	2.55	0.39
口腔・咽頭	285	95	14.7	4.9	8.1	2.3	3.00	0.33
食道	368	160	19.0	8.2	9.9	3.9	2.30	0.43
胃	1,960	735	101.0	37.9	48.3	15.4	2.67	0.38
大腸	2,171	597	111.9	30.8	58.5	12.8	3.64	0.27
┌ 結腸	1,408	414	72.6	21.3	36.2	8.6	3.40	0.29
└ 直腸	763	183	39.3	9.4	22.3	4.2	4.17	0.24
肝臓	695	587	35.8	30.2	16.6	12.2	1.18	0.84
胆嚢・胆管	332	287	17.1	14.8	6.4	5.1	1.16	0.86
膵臓	488	492	25.1	25.4	11.5	11.0	0.99	1.01
喉頭	77	14	4.0	0.7	2.0	0.3	5.50	0.18
肺	1,666	1,064	85.8	54.8	39.7	22.2	1.57	0.64
皮膚 <sup>(*)2)</sup>	334	18	17.2	0.9	7.0	0.3	18.56	0.05
乳房	1,064	181	54.8	9.3	40.6	5.7	5.88	0.17
子宮	538	78	27.7	4.0	27.0	2.2	6.90	0.14
卵巣	134	66	6.9	3.4	5.1	1.5	2.03	0.49
前立腺	1,075	145	55.4	7.5	26.2	2.4	7.41	0.13
膀胱	558	112	28.8	5.8	12.4	1.8	4.98	0.20
脳・神経系	167	37	8.6	1.9	5.9	1.2	4.51	0.22
悪性リンパ腫	423	167	21.8	8.6	12.3	3.3	2.53	0.39
白血病	132	105	6.8	5.4	5.0	2.5	1.26	0.80

年齢調整率<sup>(\*)1)</sup>: 標準人口は1985年日本人モデル人口を用いた。

皮膚<sup>(\*)2)</sup>: 皮膚の黒色腫を含む

2011年特定部位の罹患数と死亡数を男女別に比較した（図13、14）。

男では罹患数3位の肺が死亡数では1位、女では罹患数2位の大腸、3位の胃が死亡数では1位であった（付表11、12、22、23）。

生存率を反映するIM比は男の前立腺(7.4)、女の子宮(6.9)、乳房(5.8)が高く、これらの疾患は予後が比較的良好と考えられる。

図13 罹患数及び死亡数2011年<特定部位>—男—

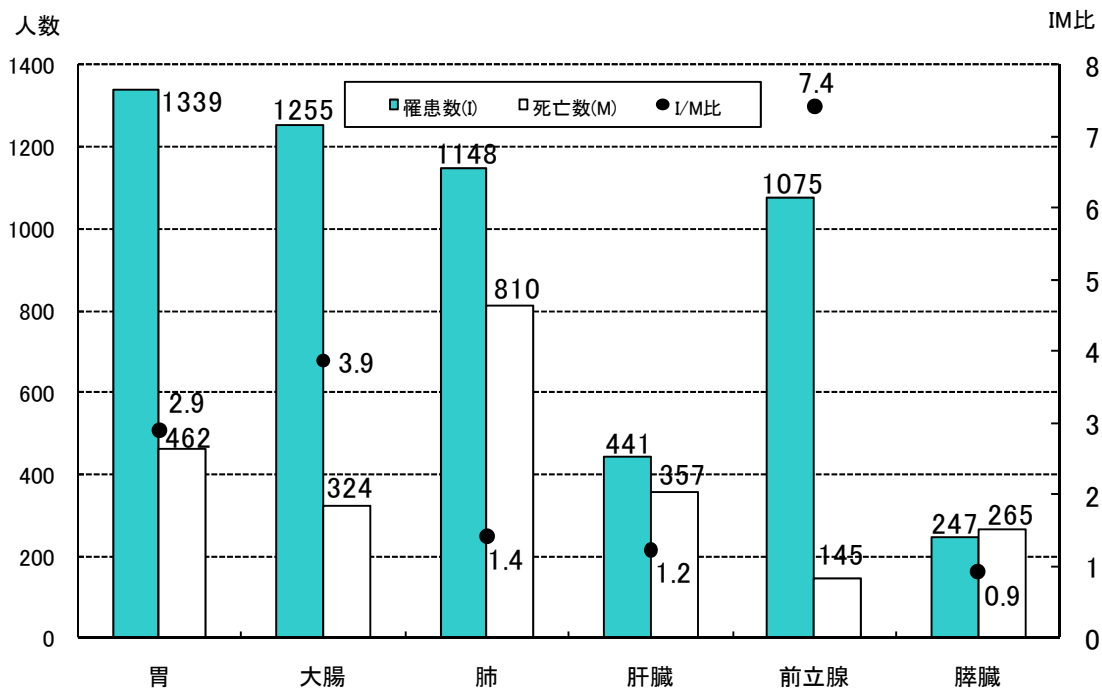


図14 罹患数及び死亡数2011年<特定部位>—女—

